

bethel hospice letter spring

ホスピスだより

tender loving care vol.8



松山ベテル病院 ホスピス病棟
〒790-0833

松山市祝谷6丁目1229番地

TEL 089 (925) 5000

FAX 089 (925) 5599

ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院



夏の思い出

院長 中橋 恒



毎年夏になると、我が家の庭や病院のベランダで朝顔が紅色の鮮やかな花を咲かせ、さわやかな朝を演出してくれます。朝顔はどここの庭でも見られる普通の花ですが、この紅色の朝顔にはある思い出がこめられています。それは、ホスピス病棟に入院して来られたおばあちゃんとの出会いが事の始まりでした。

ちょっと小太りの気さくで明るいおばあちゃんは、戦死したご主人との間に一児をもうけ、女手一つで立派に育てあげ、老後ケアハウスでのんびりと過ごされていました。おばあちゃんは花を育てるのが大好きで、ケアハウスで生活を送るようになって10年以上毎年朝顔の花を咲かせては種をとり、その種で翌年はまたきれいな花を咲かせ、皆が喜ぶ顔を楽しみに育て続けていました。

そんなおばあちゃんが体調を崩し、進行した胃癌が見つかりました。おばあちゃんへの気遣いで病名は伝えられず、行く末を考え当院のホスピス病棟へ入院して来られました。そして、出会ってから6ヶ月、80余年の人生に幕を閉じて旅立たれました。

入院中のある日のことです。枕もとの小さな箱の中に丸めておいてあるティッシュに気づき、話を向けたところ、ケアハウスで朝顔を咲かせ、皆に喜んでもらえるのが嬉しくて毎年咲かせてきたことを話してくださいました。部屋を出るときにもう咲かせる事は無理だから先生にあげると、私にそのティッシュの一握りを下さったのです。おばあちゃんが旅立たれた後も、本棚の隅っこに置きっぱなしにしていたティッシュの一握りがなんとなく気になり、我が家へ持って帰り妻へ相談し、種を蒔いて見る事にしました。蒔いた種の数15粒。その年はたくさんの紅色の花が咲き、数えきれないほどの新しい種が取れました。

それから毎年、種を蒔き双葉の芽に育った鉢を近所の方、病院の職員に配り、朝顔を育ててもらうことにして今年で7回目の種まきとなりました。ある方からこんなに育ったとデジカメの写真を頂いたり、去年の種を今年も蒔いたと知らせてくれる方、おばあちゃんの朝顔がいろんな所で咲き続けている話を耳にして、私のところで止まることなく朝顔の命が繋がっている事を実感し、たいへん嬉しくなりました。おばあちゃんの朝顔の秘めた力に心地よい命の息吹を感じ、朝顔の花言葉“結ばれた約束”を守るために、今年咲き終えた朝顔から種を取り終えました。



チャプレン 村井 仁

ベテル病院でチャプレンを務めています。ホスピス病棟のために、なかなか自分の思うようには時間を確保できなかった一年が過ぎました。何か書けるわけではありませんが、今回はチャプレンの役割や、ホスピスの一面をご紹介できれば、と思います。

「人生はタマネギみたいなもの。人は一枚一枚皮をむいてゆき、そして時に涙ぐむ」。詩人サンドバーグの言葉です。いろいろな方がお話ししてくださる中で感じることは、人の心もタマネギみたいなものかもしれない、ということです。笑顔の下に、忍耐強い性格の下に、あるいは冷静な物分かりのよい人というキャラクターの下に、一皮むけば涙があります。怒りや不条理、どうやっても拭うことのできない淋しさがあります。何処にぶつけようもない憤りや、どうしようもできない自分の無力感に私自身が苛まれることも度々です。また、身内だからこそ、家族だからこそ、大切な人だからこそ言えないこと、伝えられない想いもあります。

そして、できることなら人生から消してしまいたい過去の過ち、自分以外誰も知らない、誰にも知られたくない自分の醜さや傷…病や体の不具合、生活の不満や悩みは色々あるけれども、まあ人並みに暮らしている、そんな時ならばそのような事は最後まで誰にも言いたくはないでしょう、言う必要もありません。しかし人間なかなかそうはいかないものです。複雑な思いの中で「このままではきれいに死ねない」誰でもいい、誰か一人でいいんです。自分が去っても、この世に生きている人間の誰かに、自分の言えなかった汚れた部分や醜さ（罪）を知っておいてもらいたい、告白しておきたいのです。それは評価の対象「善し悪し」ではなく、「生きた証」なのです。そのような場合、チャプレンはお聞きしたことを他言（カルテも含めて、たとえご家族だろうと、医療チームや事例研究であろうとも）してはなりません。

もちろんすべての人にそのような願いがあるわけではありません。愛する人や、好きな音楽、時には自己と向き合う沈黙こそが大切だったりしますし、病床にあっては人と会話したり話を聴いたりする営み自体が苦痛であったりしますから、そこから解放された所で最期の時をすごしたいと望む方も多いのです。ですからチャプレンは、あくまでその「余地」に尊厳を守るべく仕えているのだと感じています。

またチャプレンの働きは、病院の利益や都合に左右されてはなりません。医療においてチャプレンは一番異質な職種ですが、その「異質な」働きを互いに尊重しあうのがチーム医療です。それがベテルのホスピスが一番大切にしている「一人一人の生き方を尊重する」「死への過程に敬意をはらう」（ホスピス病棟基本方針より）ケアへとつながっているはずです。ホスピスに限らず、看護師を中心にベテルのスタッフは、設備や時間、自分の能力といったいろいろな制限に苦しみつつも「もっとこうしてあげたい…」というジレンマを抱えて、日々のケアに邁進しています。患者さんもスタッフも同じ人間同士です。ある患者さんからは「愛され役」のスタッフでも、別の患者さんからの「嫌われ役」（憎まれ役）を引き受け、それでも笑顔絶やさずケアに徹している場合もあります。そんな中で、その時に応じた相手の立場を思いやり、一言「おつかれさま」「ありがとう」「大変ね」と労わりあうことのできる、それが私から見たホスピスのスタッフです。

ホスピス精神は、決して与えられるもの、教えられるものではなく、患者さんや仲間たちと共に苦悩する、自分の生き様の中でこそ育てられるものであることを痛感しています。



緩和ケア病棟でのリハビリテーション

理学療法士 倉橋 和人

「緩和ケア病棟でリハビリ？」と思われる方が多いかもしれません。そもそもリハビリテーション自体が、脳梗塞や骨折の人がするものというイメージが強く、その内容も知られていないのではと思います。ましてや、緩和ケアではその必要性さえ知られていませんでした。しかし、欧米では一施設にセラピスト1名以上が配置されており、ようやくこの数年で日本でも脚光を浴びてきた分野です。

今まで患者様と関わってきて感じるのは、立つ・歩く・歯磨きをする・外に出る・・・何気無く私たちがしている日常的生活ができなくなる不安を患者様が強くもっていることです。私たちが風邪で数日寝込んで、再び学校や仕事に戻るのには体が慣れるまで大変きついことです。増してや、抗がん剤の治療や疼痛の苦しみに疲れきった患者様が普通に動くことをどれだけ切に願っているか、それは、ほとんどの方が「歩きたい」と言われる言葉に集約されると思います。それは、どんなに状態が悪い方でも同じなのです。

そんな時、専門職として我々が関わることで、その不安が少しでもとればと思っております。例えば、前よりも痛みが軽くなった・ちょっと立ち上がりやすくなった・歩行距離が伸びた、どんな小さな変化でも今まで悪いニュースが続いた中での良いニュースは特別なものであり、患者様の気持ちや表情が変わってきます。その変化が、どれだけ不安を取り除き、時に生活の張りとなるか？それは今まで担当した患者様が教えてくださった経験の中で大事に生きています。

当院では2005年から専属の理学療法士、作業療法士を配置して実際に患者様と関わる時間を作るようにしています。去年からは言語聴覚士も加わり、多岐に渡る問題を解決するよう挑戦しているところです。もちろん、良いことばかりではなく難しいケースや辛い思いもたくさんしてきましたが、その経験から前向きになれることもたくさんありました。少しでも体のことで不安や疑問が在る方がいらっしゃれば、まずはスタッフの誰にでも相談してみてください。

その中で、お手伝い出来る事があれば、いつでも伺いますのでよろしくお願いします。



'09 Summer ビアガーデン



久しぶりのビール
に舌鼓み♪
焼き鳥、
焼きそば、
手打ちそば
等

いつもより
食欲UPです。

観月祭 Autumn



栄養課のスタッフが、おいしい芋炊きを用意
してくれました。

お団子・ちらし寿しはスタッフ・ボランティ
アの手作りです。



ボランティア募集しています！！



病室に外から風を運んでくださる方、花を活けてくださる方、午後のひと時、一緒にティータイムを楽しんでくださる方、「最期を自分の家で過ごしたい。」と帰られたけれど、寂しい思いを我慢しておられる方のご自宅に訪問して下さる方。

ボランティアの募集と育成を企画しております。ご協力いただける方のご連絡をお待ちしております。

TEL : (089) 925-5000 FAX : (089) 925-5599 E-mail : volunteer@bethel.or.jp
ボランティア委員会 (担当: 村井・河上)



ホスピス献金をお願いします！！

ホスピス献金は、ホスピス病棟や難病病棟の援助等、(医)聖愛会の諸活動の援助の為に(医)聖愛会に寄付として頂いております。皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★ 現金送金 ★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会 (松山ベテル病院内)

★ 郵便振替口座 ★

口座番号: 01610-2-25364 名義: 松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。

編集後記

ホスピス病棟恒例の夏のビアガーデン・秋のいもたきを終え、早いもので2009年の年末を迎えようとしています。なんとか年内にVol. 8ホスピスだよりを発行する事ができました。御協力頂いた皆様に感謝致します。次回は、2010年3月発行を予定しています。お楽しみに♪

編集委員会: 西久保、川久保、西原、白井